

令和2年度教育研究業績書

氏名 三宅 晶子

最終学歴	早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期単位取得満期退学	
取得学位	博士(文学)	
所属学会	能楽学会・中世文学会・全国大学国語教育学会	
専門分野	中世日本文学(特に能楽)、古典教育研究	
研究課題	能楽研究、古典文学教育の研究	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・言語・文学(二) ・基礎演習Ⅱ(2) ・古典文学概論Ⅰ・Ⅱ ・演習Ⅰ(三) ・国文学講読(三) ・中世文学論 ・演習Ⅱ(三) ・卒業論文(三)
	大学院修士課程担当科目(博士前期課程含)	
	大学院博士後期課程担当科目	
	通信教育部担当科目	・歴史文学論
【研究上の特記事項】	能楽研究の方は継続中の現代語訳に取り組んでいる。 古典教育研究の方では、日本学術会議への提言をまとめた。(連携委員の共同作業)	
【教育上の特記事項】	<p>オンライン授業という制約のなかで、最大限学生たちの興味を持続させ、自発的な取り組みを可能とするような工夫をしている。</p> <p>① 平家琵琶・能・狂言・歌舞伎の舞台上映のDVDを、同じ曲に関して、テーマに関して多数の映像を繰り返し見せることで、理解力を高める。</p> <p>② 百人一首を積極的に理解し、味わうために、各自が無理なく独習できる計画と、教授法を工夫した。ポータルサイトを利用して、全六回提出するミニレポートは、必ず目を通してコメントを付けて返信する。これを繰り返すと、真剣に取り組む、毎回のレポートが楽しみになると学生が増え、受動的な教室での講義とは違う、能動的な勉強が可能となった。またカルタ絵に描かれている図柄から、どのような作品世界として理解可能かを考えさせ、個々に一首選んでカルタ制作をすることで、和歌の世界に深く踏み込んでいけるきっかけを作ることができた。</p>	
【社会的活動】	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学術会議連携委員 ・朝日カルチャーセンター横浜校公開講座講師 ・日経能楽鑑賞会「綾鼓」金剛流・観世流、各二番、YouTube上映用ビデオ編集 <p>コロナ禍で、依頼されていた講演が中止となり、あまり活動はできなかったが、後半ではオンライン授業という形態での依頼が多くなり、来年度には幾つか開催することとなる。</p>	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	<p>歴史フォーラム委員 大学院運営委員他</p> <p>自主ゼミ「能楽鑑賞会」コロナ禍でコンスタントには開催できなかったが、秋学期に月1回三回開催。国文学科に限らず、文学部の学生が十名ほど集まって、楽しく能・狂言の鑑賞を行った。</p>	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①対訳で楽しむ〈弱法師〉	単	令和2年4月	檜書店	能〈弱法師〉の観世流謡本の現代語訳本である。全体の見所を解説したうえで、各場面毎に特色を明らかにし、各流儀の相違を記し、注を付したものの。31頁
②				
③				
(学術論文)				
①能の現代 ④⑦〈弱法師〉心を閉じてしまった俊徳	単	令和2年5月	花もよ編集室、『花もよ』49号	能〈弱法師〉について新しい読みを提示。19頁
②能の現代 ④⑧〈百万〉名手百万が舞う曲舞	単	令和2年7月	花もよ編集室、『花もよ』50号	能〈百万〉について特色を論じた。19頁
③能の現代 ④⑨〈忠度〉世阿弥が修羅能で表現したかったこと	単	令和2年11月	花もよ編集室、『花もよ』52号	能〈忠度〉をもとに、世阿弥の考えを分析した。19頁
④能の現代 ⑤⑩〈花筐〉玉の中の玉を得たる	単	令和3年1月	花もよ編集室、『花もよ』53号	能〈花筐〉の物狂能たる所以について手考察した。19頁
⑤能の現代 51〈生田敦盛〉投影という手法の魅力	単	令和3年3月	花もよ編集室、『花もよ』54号	能〈生田敦盛〉について、名曲〈敦盛〉を投影することの効果について論じた。19頁
(学会発表)				
①				
②				
③				
(その他)				
①提言「高校国語教育の改善に向けて」	共	令和2年6月	日本学術会議/言語・文学委員会/古典文化と言語分科会	日本学術会議の連携委員として、所属する古典文化と言語分科会から、新学習指導要領を取り上げ、今後の高校国語教育の改善について提言を発表した41頁
②日経能「綾鼓」金剛流・観世流YouTube上映用ビデオ編集	共	令和2年12月	日経新聞社	12月9日・13日に行われた第十四回日経能楽鑑賞会の上映ビデオをYouTube用ビデオとして編集した
③				